

春合宿 越後 足拍子岳集中登山

日程 2013年3月8日(金)夜行～3月10日(日)

ルート クロガネの頭中尾根隊：クロガネの頭中尾根～足拍子岳～足拍子岳南尾根下降
荒沢山カドナミ尾根隊：荒沢山カドナミ尾根～足拍子岳～足拍子岳南尾根下降
荒沢山荒沢尾根隊：荒沢山荒沢尾根～荒沢山～カドナミ尾根

メンバー クロガネの頭中尾根隊：八十島L・蛭田・津田・井上(哲)
荒沢山カドナミ尾根隊：上坂L・山下・立石
荒沢山荒沢尾根隊：古関L・木村・山本

【クロガネの頭中尾根隊報告】

タイム 9日 土樽駅6:00～タクシーで旭原6:30～コマノカミ沢9:30～中尾根取付11:30～
東尾根上幕営場17:00
10日 東尾根上幕営場6:30～クロガネの頭7:30～足拍子岳
8:10(カドナミ尾根隊を待つ)～南峰9:40～土樽駅12:20

■9日 ●AM1:00 土樽駅に到着 その後仮眠



●AM6:00 にタクシーで旭原へ
30分程で到着



●AM6:30

ここからスタートです

ワカンを付けて、足拍子川沿いの林道(雪で埋まってよく分からない)を歩く。歩き出して約3時間で足拍子川とコマノカミノ沢の分

岐に到着。この頃から晴れてきて、暑くなる。コマノカミノ沢沿いを進むと中尾根が見えます。中尾根の取付に着く前にルートの間違え、隣の東尾根を少し登ってしまいました。おかげで40分ロス。



歩き始めはうっすら有ったトレースもすぐに無くなり、すね位のラッセルになる。



中央の尾根がクロガネの頭中尾根の取付 すごいデブリ!時々左右の尾根から雪が崩れてきます。

●AM11：30 中尾根の取付でワカンからアイゼンに履き替える。尾根上は雪面が大きく割れて開いている所がたくさん出来ていて、乗り越えるのに苦労した。

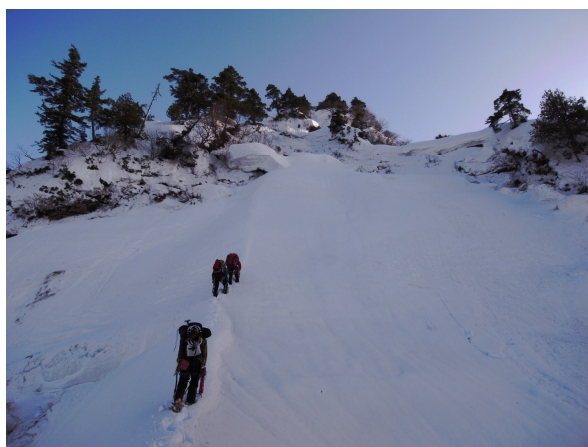


この先の崩れそうなキノコ雪を通過する時にロープを使用し、八十島さんがグズグズの雪を掻き分けロープを伸ばした。



順調に中尾根を登る

●PM5：00 中尾根が東尾根に合流した先に幕営適地があったので、整地してテントを張る。



もう少しで東尾根に合流するところ

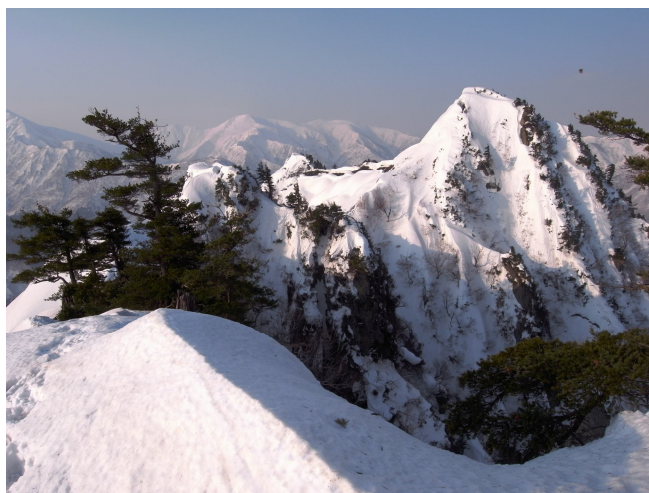


東尾根上の快適だったテント場

■10日 晴れ ●AM6：30に幕営地出発する

右のピークが足拍子岳です。クロガネの頭付近から足拍子岳までの稜線上はトレースがありました。

●AM8：10頃に足拍子岳の山頂に着く
足拍子岳～荒沢山の稜線上にカドナミ尾根隊（上坂 立石 山下）のテントが確認出来た





クログネの頭方面



足拍子岳を登るカドナミ尾根隊

- AM9：15 頃カドナミ尾根隊と合流する 登頂の喜びを分かち合う
- AM9：30 下降開始



下降の為、南峰に向かう。南峰付近は雪面が大きく割れており、崩れやすい雪で乗越しに苦労する。さらに南尾根下降中からガスが出て降雪が始まり、視界が悪くなりルートファインディングが難しくなる。

直接土樽駅の近くに繋がる支尾根の入り口辺りからはGPSも登場という事になりました。



- AM12：20 土樽駅に到着！ 荒沢尾根隊（山本 古関 木村）と合流

◆感想

足拍子山群は標高は低いが、ラッセルやルートファインディングが必要な山で自分にとっては登りごたえがあった。クログネの頭中尾根隊は、隊のリーダーの八十島さんの事前の準備でスムーズに行動することが出来ました。自分も総合力を身に付けて、山に登りたいなと思いました。

報告者：蛭田

【荒沢山カドナミ尾根隊】

■8日 愛甲石田駅で立石車に拾ってもらい、上坂が待つ麻溝台へ。この辺は道がごちゃごちゃしていて、圏央道の接続が待ち遠しい。私がアルパインをやっている間に完成するのだろうか？上坂合流後は高尾山ICから圏央道に入り一路湯沢を目指す。12時過ぎに土樽の駅に到着すると、翌日大源太

山に登るといふ6人パーティーが酒盛りをしていた。少し詰めてもらい寝床を確保して寝たらすぐにクロガネの頭中尾根隊が到着した。

■9日 クロガネの頭中尾根隊を見送ったところに荒沢山荒沢尾根隊がやってきた。朝食を食べてさあ出発！

林道の入り口から先行している荒沢山荒沢尾根隊のトレースをたどるとすぐにカドナミ尾根の取り付きとなる。最初の30分くらいは急登だが、すぐに視界の良い尾根となり目を楽しませてくれる。

これからたどる荒沢山～足拍子の尾根も良く見えている。八十島からきた雲表クラブの報告書の通り、キレットから先はアップダウン



ンの多いナイフリッジの様で大きな雪庇が張り出している。朝から良い天気で気温が上昇していることもあり時折その雪庇が崩れて雪崩れてくる。

カドナミ尾根を登り始めた頃は「こんな快適なら今日中に足拍子の山頂まで行って、今夜は土樽の駅で宴会だーっ！」と思っていたのが段々アヤシイ雰囲気になってきました。

それでもお昼前に快晴の荒沢山山頂に到着。さすがに眺めが良く、谷川連峰、苗場山、八海山、越後の山々が見渡せました。下から登ってくる荒沢尾根隊も良く見えたのでコールをかける。



●12時19分 いよいよ問題の稜線に突入。雪の状態が悪すぎるのでロープを出して確保します。



トレースは全くなく、カモシカの足跡だけがついています。雪が安定していれば初心者のステップアップに良いルートかも知れませんが、今回は3月の頭にドカ雪が降った後、急に気温が上がり最悪です。

キレットの懸垂ポイントまで2ピッチ。途中立木があるので確保支点には困りませんが、下りのリッジで雪面が割れているとドキドキものです。カドナミ尾根を登っているときの「楽しむ春合宿」から真剣モードへ切り替えです。

キレットからは1ピッチ首が痛くなるくらい見上げる急な雪壁を登り返します。気温は高いので足指冷え症の上坂も快調にロープを伸ばします。頭上に張り出す雪庇が威圧的です。登っている最中も右側の日向の斜面は雪がグズグズに腐り、盛んに雪崩れて行きます。

稜線中央部の下から見ても今にも落ちそうだった巨大な雪庇の所についたのが16時。いかに日が長くなったとはいえ明るいうちにこの稜線を抜けるのは難しくなってきました。途中、両側に雪庇が張り出し真ん中がなぜか平らになっている場所がありました。気温が低く雪が硬ければ幕営するのに良さそうでしたが、この日の状態では寝ている最中にテントごと滑落しそうなのでパス。

5時半を回り、さすがに夕闇が迫ってきました。稜線も3分の2が終わっていますが、複雑な地形でスピードが上がリません。



いよいよヘッ電の出番です。ヘッ電のか細い光の中、細いリッジにしがみつき乗越して反対側を見たら暗闇の中に切れ落ちていたときの失望感がたまりません。実際にはそれほどの距離ではないのですが、ヘッ電で見ると奈落の底まで続いている様に見えます。

そんなリッジの下降を2回ほど行った後、大きく開いた雪の割れ目をたどったら急に平坦な雪稜に出ました。核心の稜線が終わりました。

雪面を平らに切り、テントの設営を終えたのが8時。「今夜は土樽の駅で宴会」どころかまだ山頂にも立てていません。でもここから先は普通の雪山だと思えばホッとします。3月とは思えない生暖かな風の吹く中、お茶、夕食と至福の時間が過ぎて行きます。

■10日 足拍子の山頂はすぐそこで、クロガネの頭中尾根隊はまだしばらくは到着しないだろうとたかをくくっていたら上から「ヨカッタ〜ッ！」のコール。急いで準備をして目の前の雪壁に取り付きます。

9時半に山頂にてクロガネの頭中尾根隊と合流。でもあまりのんびりしてられません。朝は晴れていたのですが段々と雲が広がってきました。雪の状態が悪いのでガスに巻かれて視界が無くなると雪庇を踏み抜いて危険です。

急いで下れ〜！！



足拍子岳南尾根～南西支尾根下山に関してはクロガネの頭中尾根隊蛭田の報告参照。

【感想】

- ・ホワイトアウトしたときのGPSは強力な助っ人です。
- ・荒沢山～足拍子岳間の稜線はなかなかタフなルートで楽しいです。ミニアルパインといった所でしょうか？常に下に土樽の駅や関越自動車道が間近に見えているので精神的重圧感は低いです。

報告者：山下

【荒沢山荒沢尾根隊】

■ 8日夜行

当初は木村・古関・宗像・山本の四人の予定であったが、急遽宗像さんが仕事の都合により不参加となってしまった。残念だが仕方ない。仕事をしながら無線の受け渡し場所や時間の調整をしてバタバタとした出発となってしまった。結局湯沢ICを降りたのは一時半頃になってしまった。こんなに遅い時間では土樽の駅は一杯だろうということで、我々は越後中里の駅で仮眠した。

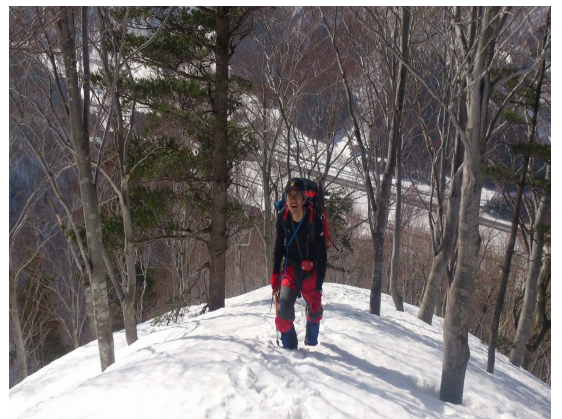
■ 9日 7時15分 土樽駅出発

本来は荒沢山から足拍子岳まで縦走の計画だが三人パーティになってしまったことや、気温が高くなり雪が不安定になることが予想できるため、本日は荒沢山までのピストンとした。駅を出発して5分と行かないうちに雪の林道へと入る。カドナミ尾根の取り付きを過ぎて20分ほど歩くと荒沢尾根の取り付き付近に着く。

● 7時50分荒沢尾根取付

なるべく傾斜が緩い所を見つけながら木々の合間をすり抜けながら登っていく。しかし折角山の中に居るといふのに背後から高速道路を走る車の音がずっと聞こえる。正直言って興奮めだ、車の音は聞き飽きている、静かな山を楽しみたい。

樹林帯を登っていく、天気は良すぎて暑いくらいだ。



● 10時6分 標高750M 付近大休止

樹林帯の中を登り続けやっと視界が開けてきた。背後に見える山々が美しい。快晴で景色が良いが、熱すぎる、まるでGWのような陽気である。薄着になっても汗が止まらず思わず大休止を取る。



気温が高く太陽が高くなってきた為、雪が柔らかく不安定になってきた。時折ひざ下までのラッセルとなる。

標高を上げるに連れ徐々に雪庇が大きくなっていき、雪庇の根元付近にできる亀裂の大きさが大きくなっていく。稜線上の雪の上を行けば快適なのだが、高さ深さが1m弱もある様な亀裂の付近を歩く気にはなれず、洪々雪庇とは反対側の藪や木が生い茂る斜面をトラバース気味に登っていく。まるで木の中を泳ぐよう

で、ピッケルを持つより木の枝を掴んでいることのほうが多かったのではなかろうか・・・。

●12時30分 荒沢山山頂

やっとの思いで山頂に辿り着く、まるで木登りをしている気分であった。標高は低いが生山頂は気持ちがいい。

山頂からカドナミ尾根を降りていくと足拍子岳と、そこへと続くキレットを通過しようとするカドナミ隊の姿がよく見える。いかにも悪そうな尾根である。今にも落ちてしまいそうな雪庇がいくつも有り、実際我々が下山中も次々と雪庇が落ち雪崩が起きていた。



カドナミ尾根は荒沢尾根とは打って変わって非常に歩きやすく展望も良い尾根だった。急ぐ理由もないのでゆっくりと下山し15時30分に土樽駅到着

報告者：山本